



### 6 過去を未来につなぐ仕事人インタビュー

Gプランニング アソシエイツ/清水康造

## 20 古民家再生

- 01.群馬県『長屋門の家』
- 02.山梨県『N邸』
- 03.奈良県『榎原五条野の家』
- 04.山梨県『北杜市白州の家』
- 05.滋賀県『大津市/N邸』
- 06.埼玉県『騎西の家』
- 07.大阪府『美原の農家』
- 08.静岡県『楽蔵』
- 09.千葉県『渡辺邸』
- 10.神奈川県『高崎邸』
- 11.宮城県『若出山の家』



### 65 特集

## 古材を使った新築&リフォーム

- 01.埼玉県『生家の面影を残す家』
- 02.千葉県『九十九里のたいらな家』
- 03.静岡県『瑞雲寺/村上邸』
- 04.京都府『西賀茂の家』
- 05.静岡県『落合邸』



### 古民家風新築

- 01.静岡県『久保田邸』
- 02.宮城県『H邸』



## 93 本物の古材パーツに出会える場所

# 買える! 古材パーツカタログ

## 113 古材を使った 食事処



- 1.東京都／葉歩花庭
- 2.兵庫県／雪月風花
- 3.東京都／176
- 4.大阪府／鍵や
- 5.静岡県／八っすんば
- 6.大阪府／ちゃんぽん亭総本家 天神橋店



## 138 古民家相談窓口

>>> 【連載コラム】

- 10 切り絵で描く古民家 文=久保 修
- 12 古民家を継承する模型の力 文=菅野清八
- 14 モロッコの大地の家 ティジルト 文=鈴木喜一
- 16 世界の古民家紀行 文=長谷川和男
- 62 東京の伝統工芸巡り 文=井上雅史
- 92 日本の方言 文=真田信治
- 110 鬼を巡る旅 写真=大東照男 文=岡田親彦





①「楽蔵」は山間を見下ろす絶好のロケーションにある。茶葉を保管しておくための蔵であったもとの建物の雰囲気はそのまま残したが、開口部を追加するなどして利便性を高めている。②既存蔵戸を再利用した玄関。もともと古材が好きだったご夫婦は、シティアートが運営する古材ショップ&ショールーム「ぎやらりい門」にたびたび訪れていたのだとか。

古民家再生08 静岡県『楽蔵』

# お茶屋の蔵を残したい 強い思いが現実

設計施工Ⅱ 有限会社シティアート  
05427810301  
写真Ⅱ 横村太郎



③フラットな壁、天井と、蔵の面影を残す1階の空間。天井は、既存より25cmほど高くした。床は無垢のチークに塗装し、奥様の希望である華やかな色みのフロアが実現。④吹き抜けとなった玄関。⑤奥様が惹かれた見事な梁組みを再現。200年の時を経た貫禄がある。⑥既存の箱階段も再利用。

岡県内で飲食店を営むご夫婦は、あるとき近所にあったお茶屋の蔵を取り壊すという話を耳にする。現地でその蔵を見たご夫婦は立派な梁組みに魅せられ、「特に私のほうが気に入ってしまった(笑)」と奥様はいう。なんとか壊さず再利用する方法を考えたいところ、新たに土地を探して移築し、別荘にする話がまとまる。が、希望のロケーションや広さの土地がなかなか見つからない。諦めの二文字が脳裏に浮かんだとき「たまたま親戚の紹介で、主人の生家の跡地に移築できることになったんです」と奥様。古民家の再生は何かと縁が作用する。この蔵も例にもれず、新しい家主と出会い、土地が導かれ、ご主人ゆかりの地でご夫婦は休日を楽しむ機会を得た。

再生に関しては至ってシンプルで、キッチン、トイレを備えたワンルームの1階とロフトのみ。近所に温泉

古民家DATA	
●家の年齢	200年
●家のつくり	蔵
●家の広さ	敷120.54坪 延18坪
●改修の形式	移築再生
●家族構成	大人2人

があるのでお風呂も設置しませんでした。ご主人。「規模もほぼそのまま、もとの雰囲気をできるだけ残しています」。建物名は、蔵と楽を組み合わせ「楽蔵(ラ・クラ)」。別荘での楽しみの時間を予感させるネーミングである。

## 建てる人・暮らす人からのメッセージ

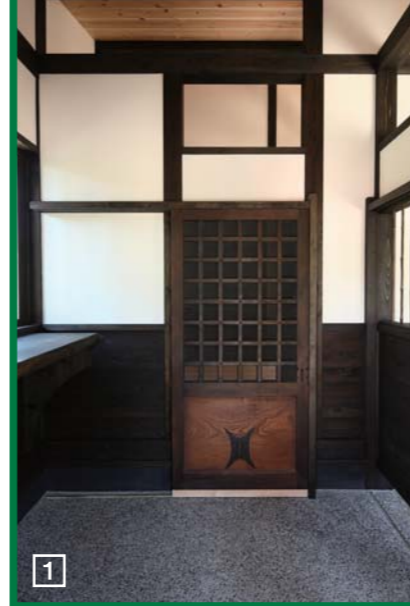
### 暮らす人Q&A

- Q1. 古民家再生住宅で暮らそうと思ったきっかけは？  
A1. 蔵をひと目で見て気に入って、再利用したいと思った。
- Q2. シティアートに再生を依頼した理由は？  
A2. 『ぎやらりい門』に行くと再生工事を行うと知った。
- Q3. シティアートに伝えたい主な要望は？  
A3. もとの蔵の雰囲気を残し、飽きのこない空間に。
- Q4. 古民家再生にかかった期間は？  
A4. 土地探しに3カ月、計画に4カ月、工事に4カ月。
- Q5. 再生住宅に暮らしてみてもよかったですか？  
A5. 家族や友人を呼んで楽しい時間が過ごせること、自然に囲まれた集落なので、夜景が本当にキレイです。
- Q6. いちばん気に入っている空間とその理由は？  
A6. 蔵の雰囲気そのままなので建物全部ですね。
- Q7. 古民家再生をしようと考えている方にひとこと。  
A7. 再生工事は、素人にはわからないことが多いので、信頼できるよい業者を選んでおまかせすること。

### 建てる人Q&A

- Q1. 再生前の家屋の状態を教えてください。  
A1. 一部、柱などに腐朽が見られた。
- Q2. 今回行ったおもな再生工事の内容は？  
A2. 江戸後期に建てられたと思われる蔵の移築再生。
- Q3. お施主さんの要望に対する具体的な対応は？  
A3. 移築後もひと目で蔵とわかるデザインとした。
- Q4. 今回の再生でいちばん苦労した点は何ですか？  
A4. 石垣を残すためのレッカーの吊り上げ作業が生じたこと。
- Q5. いちばん愛着のある空間とその理由は？  
A5. 天井の梁組みまでが見通せる吹き抜け玄関。
- Q6. シティアートにとっての古民家再生とは？  
A6. 環境問題を考えるうえで有意義な仕事と感じる。日本の住宅事情と伝統文化への関心がさらに高まってほしい。
- Q7. 古民家再生をしようと考えている方にひとこと。  
A7. 不慣れた昔の建物の有効性をお施主様と一緒に考え、現代の暮らしに合った家づくりをしたい。





1.古い蔵戸を利用した内玄関。2.約200坪のゆとりある敷地に平屋建てとした。四方から風が抜け、天窗からは自然光がさし込む。地の利をいかした設計だ。岩熊さんいわく「実は僕も昔ながらの木造の平屋で育ったんです。大らかなつくりの平屋はいまだに憧れですね」。3.リビングの天井には、新築の古民家解体材である梁を設置。古材センターで厳選した材を使い、構造体として再利用している。

#### DATA

家のつくり：木造平屋建て  
 家の広さ：敷200坪 延36坪  
 家の形式：古材利用戸建て新築  
 家族構成：大人2人+子供1人

# 古材

古材利用：02

千葉県『九十九里のたいらな家』

## 東西南北に風が抜ける 平屋の持ち味を存分にいかす

写真／横村太郎

設計 熊家民家再生  
 施工 ☎0475-22-8898

もともと和の住宅を建てたいと考えていたご夫婦は、ハウスメーカーも含めて家づくりを検討していた。そんなとき、熊家民家再生のオープンハウスで同社代表取締役である岩熊さんの自邸を見学し、無垢の材を多用した空間に一目惚れしたのだとか。「本物の木がもつ力を感じていただけようです」と岩熊さん。「ご主人が古いものが好きな方なので、無垢材だけでなく、古材も利用することにになりました」。

建物の規模は「当初2階建ての案も出ていた」と岩熊さん。「総2階にすれば、単純に屋根も基礎も半分になるので予算は抑えられる。でも、敷地が広いので平屋とするのも魅力。最終的には、平屋の日本家で生まれ育ったご主人の意向もあって1階建てに決まりました」。平屋といえは広い土間と長い縁側。そう考えた岩熊さんは、南面に広縁、一角には土間も設け、昔ながらの日本家屋のように内外のつながりを密にしている。内部空間には古材を使うだけでなく、ご主人が見つけてきた古建具なども配置。現代住宅でありながら、古民家の風情をもつ空間を完成させた。





Published by  
**WORLD PHOTO PRESS**  
Publisher of Mono magazine,  
World Wristwatch TIMESPEC,  
Figure Oh, Mode Optique, and  
World Mook series.

**Editorial & Corporate Headquarters:**  
3-39-2 Nakano, Nakano-ku,  
Tokyo 164-8551, JAPAN  
Tel : 03-5385-5662 Editorial  
Fax : 03-5385-5617 Editorial  
Tel : 03-5385-5701 Circulation  
Fax : 03-5385-5703 Circulation

**Editor & Publisher**  
Kesaharu Imai

**Manager**  
Satoru Otani

**Editor**  
Tadashi Kunihiro

**Writer**  
Miyuki Matsushima  
Takako Kakuta  
Ayako Yamamoto  
Tomoko Nogami

**Cover Design**  
Toshio Wakayama

**Design**  
Favorite Graphics inc.

**Advertising Director**  
Kazuo Tsuboi

**Production Director**  
Shunsuke Ogawa

**Circulation Manager**  
Hiroshi Sasagawa

**Print**  
TOPPAN Printing Co., Ltd.

**DTP**  
Base

**Correspondent, Washington D.C. Bureau**  
**(Pictorial Press International)**  
Norman T. Hatch  
Mikako Burks



ワールド・ムック574  
**古民家スタイル**  
No.5  
定価1800円  
柱と梁と壁と天井。ものを食べ、眠る場所。それから、冬の間の少しの睡。無駄なものはいらない。壊さない再生と住み継ぐ力をテーマにした古民家再生住宅を紹介。



ワールド・ムック536  
**古民家スタイル**  
No.4  
定価1800円  
思い出と愛着のある家。そこには座敷、縁側、庭へとつながる安らぎの空間がある。現代の生活スタイルと守るべきものの共存した、懐かしくて新しい暮らしを提案。



ワールド・ムック514  
**古民家スタイル**  
No.3  
定価1800円  
座敷、障子、廊下、坪庭といった日本の家ならではの空間で暮らしの時間を融合させる。古民家を紹介。茶室から和の住宅パーツと古材まで、和の実力を隅々まで探求する。



ワールド・ムック445  
**古民家スタイル**  
No.1  
定価1800円  
古さを生かして「今」に住む。伝統的な家の良さと現代の暮らしの時間を融合させる。そこに家づくりと住み方の両方を楽しむ新しいスタイルが生まれる。



ワールド・ムック363  
**古民家再生**  
定価1800円  
愛されてきた昔ながらの家。手間を惜しまぬ人がいて、技と知恵を持ち寄る人があれば家は何度か新しい命を生きる。日本の家は、次に来る世代への贈り物。



ワールド・ムック676  
**古民家スタイル**  
No.8  
定価1800円  
現代住宅をベースに古材の梁や建具、欄間などを再利用した空間づくりの住宅を特集。既存と古いものを混在させた、温故知新の住空間がここにある。



ワールド・ムック644  
**古民家スタイル**  
No.7  
定価1800円  
民家にはその地域の風土から生まれた特徴があり、建築家は地域の伝統を残そうと工夫を凝らす。古民家には、その土地で育まれた昔の暮らしも生きている。



ワールド・ムック598  
**古民家スタイル**  
No.6  
定価1800円  
先人たちの知恵と工夫が込められた古民家には、今の暮らしに必要な多くのヒントが隠されている。古民家再生住宅から学ぶ、今、これからの暮らし方。



ワールド・ムック000  
**古民家スタイル**  
No.13  
定価1800円  
「古民家に住み継ぐ心と力」をテーマに「暮らす人」、[建てる人]の生の声を収録。実際に再生に関わった人たちのコメントは大いに参考になるだろう。



ワールド・ムック788  
**古民家スタイル**  
No.12  
定価1800円  
全国の古民家再生住宅の紹介のほか、マンションで古民家を味わう実例を特集。厳選された古民家の食事処、古民家に出会える場所など、すぐにも赴きたくなる情報も満載。



ワールド・ムック760  
**古民家スタイル**  
No.11  
定価1800円  
伝統構法によって蘇った再生民家や古民家風に建てられた現代の民家を紹介。建具に欄間、民具などの古材パーツを集めた厳選カタログや古民家のカフェ特集も収録。



ワールド・ムック734  
**古民家スタイル**  
No.10  
定価1800円  
失われてゆく日本の茅葺の古民家と、癒しの山村風景を大特集。また再利用すべき、細部まで職人の技術が集約された秀逸の建具、欄間など購入可能な一点モノも数多く紹介！



ワールド・ムック704  
**古民家スタイル**  
No.9  
定価1800円  
古民家再生事例だけでなく古い民家の癒しの空間を満喫できる宿やカフェを特集している。古民家で暮らすことの素晴らしさを少しでも体験してほしい。

ワールドムック  
好評発売中

「古民家スタイル No.2」は売り切れです。

WORLD Mook ワールド・ムック839  
平成22年10月5日発行(通巻839号)

空間に古材や古建具を取り入れた、古くて新しい家づくり。

# 古民家スタイル No.14

ワールドフォトプレスのホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

編集・発行人 ● 今井今朝春  
発行所 ● 株式会社ワールドフォトプレス  
〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
編集部 ● TEL: 03(5385)5662 FAX: 03(5385)5617  
広告営業部 ● TEL: 03(5385)1350 FAX: 03(5385)1348  
販売部 ● TEL: 03(5385)5701 FAX: 03(5385)5703  
印刷所 ● 凸版印刷株式会社  
©WORLD PHOTO PRESS 2010(禁・無断転載)

本誌に掲載されているデータおよび価格は2010年6月1日現在のものです。また表示価格はすべて税込みとなっております。造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら販売部までにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。本誌掲載記事の無断複製転写を禁じます。バックナンバーのお申し込みはインターネットをご利用いただけます。  
<http://www.monomagazine.com/>